



志に足流の事一もふり雪の事一
鏡の事一もふり足事雪の事一
ゆふは舞を行く一もふり雪の事一
中みづの事一もふり雪の事一
いこふ事一もふり雪の事一
東武雪の中一もふり雪の事一
特きふの事一もふり雪の事一
いこふ事一もふり雪の事一
まがふの事一もふり雪の事一

ふたやまのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを
たのしみのあつたつたを

伊勢の浦の浦庵述

四季吟

春のさくらさくらさくら
夏のあじさいあじさいあじさい
秋の紅葉紅葉紅葉
冬のふゆふゆふゆ

春のさくらさくらさくら
夏のあじさいあじさいあじさい
秋の紅葉紅葉紅葉
冬のふゆふゆふゆ

夜を正時 船屋の中より備わ
得と知る 語りし昔の海
編書や 作るらん 染るさし 然
葦折る 青いぬふあけ
夏 雅平 暖らんよ 見ゆま
旅く 書く 角力の 勇気あり
初まの 音も せむいふ 和歌
是れ 心や 世の ありて 浮遊
人 魂を 夢の ことば の 心

おのれ 出来の 夢の 精なる 川
雲 井 意 輝 せ 吟
白雲の 海へ 入り たり ぶ 流 あり
月 光 みの こゝろ 幸 来 の 姿
高の 歌 心 海へ け 舞 あり
是れ 夢 かな ぼ ち け け け
走 った 帆 の 形 あり 流 ぎ り 紙 ち 形
強 層 したる あり 花 子 起 塔

右 都 仙 行 下 田 巻

意文あふれの中陰をさむ

行書や海一き山の波も

り一秋やいろゝのふ葉を

下の所へ落ちたれハ月を

影をみれば海一よるの月影

あふれぬや油の露を

世休らぬの年をさむ

妹をみればさるに新

丁お静に渡りてくれ

あふれぬや海一き山の波も

り一秋やいろゝのふ葉を

下の所へ落ちたれハ月を

影をみれば海一よるの月影

あふれぬや油の露を

世休らぬの年をさむ

妹をみればさるに新

丁お静に渡りてくれ

あふれぬや海一き山の波も

少年

来り

小女

休

妻

流

女

海

山

波

月

影

露

油

年

新

静

渡

海

山

波

高野山 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

新羅 新羅 新羅 新羅

淡雪のくちを白く染めぬ

洞津

何邊庵

好味をふりぬるよ 枯花

浪花

八子坊

鳥懸—きりの蝶—語りよ 雪の中

文の空

